

「オリジナル楽器で聴くバッハ」

(全2回)

第1回

2014年6月6日(金) 19時開演(18時30分開場)

ラ・プチット・バンド *La Petite Bande*

音楽監督:シギスヴァルト・クイケン *Sigiswald Kuijken, Direction*



古楽器オーケストラの最高峰による
至高のJ.S.バッハ・プログラム

管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV1066

Orchestral Suite No.1 in C major, BWV1066

ブランデンブルク協奏曲 第5番 二長調 BWV1050

Brandenburg Concerto No.5 in D major, BWV1050

管弦楽組曲 第3番 二長調 BWV1068

Orchestral Suite No.3 in D major, BWV1068

管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV1067

Orchestral Suite No.2 in b minor, BWV1067

管弦楽組曲 第4番 二長調 BWV1069

Orchestral Suite No.4 in D major, BWV1069

◎全指定席:8,000円

第2回

2014年7月6日(日) 15時開演(14時30分開場)

シギスヴァルト・クイケン、無伴奏 *Sigiswald Kuijken*

ヴィオロンチェロ・ダ・スパツラ *Violonchello da Spalla*



注目の楽器、
ヴィオロンチェロ・ダ・スパツラによるチェロ組曲

無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007

Suite for Solo Cello No.1 in G major, BWV1007

無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV1009

Suite for Solo Cello No.3 in C major, BWV1009

無伴奏チェロ組曲 第6番 二長調 BWV1012

Suite for Solo Cello No.6 in D major, BWV1012

◎全指定席:5,000円

2公演シリーズセット券:12,000円

PHILIA HALL

レオンハルト、ブリュッヘン、アーノンクール、ビルスマ達と古楽界を常にリードしてきた
巨匠シギスヴァルト・クイケンがJ.S.バッハの真髄に迫る!!



J.S. Bach

La Petite Bande
Sigiswald Kuijken

◎チケット発売日

■一般発売 2014年1月19日(日) 11:00 * 発売日は電話・Webのみ受付

■フィリアホールメンバーズ先行予約締切:12月17日(火)

フィリアホールチケットセンター 045(982)9999

取扱時間11:00~18:00

www.philiahall.com/ [24時間オンライン予約]

www.philiahall.com/mobile/ [モバイル予約]

青葉台東急スクエアSouth-1 本館5階(東急田園都市線青葉台駅前)

主催:カメラータ・トウキョウ

共催:青葉区民文化センターフィリアホール 協賛:㈱キングインターナショナル

ラ・プティット・バンド

La Petite Bande

1972年S.クイケンとG.レオンハルトにより結成されたバロック・オーケストラ。その名称と構成は、ルイ14世の宮廷におけるリュリのオーケストラにちなんでいる。

レコード会社のドイツ・ハルモニア・ムンディが録音する、グスタフ・レオンハルト指揮のリュリの「町人貴族」のために、会社の提案で組織される。アンサンブルの名称とメンバーの数は、ルイ14世の宮廷でのリュリ自身のオーケストラを規範としている。楽団の目的は、古楽器(作曲家当時のオリジナル楽器またはそのコピー)や正統的(オーセンティック)な演奏習慣、オリジナルな演奏技法を用いて、音楽を正統的な形で復活すること、歴史的に忠実な響きと、無趣味だったり形式的ではない音楽を実現することにある。

録音が大成したためにオーケストラは定期的にコンサートや音楽祭に招かれるようになり、結局、恒常的な団体として活動することになる。結成以来、レオンハルトとS.クイケンが指揮を分け合ってきたが、S.クイケンが常任指揮者を務めている。今日ではそのレパートリーも、もはや当初のフランス・バロック音楽に留まらず、コレリやヴィヴァルディなどのイタリア・バロック、バッハやヘンデルのドイツ盛期バロック、さらにハイドンやモーツァルトといったウィーン古典派にまでおよび、国際的にその演奏は高い評価を得ている。1993年に初来日、ハイドンの天地創造で日本のファンにその実力を披露、以後定期的に来日し、歴史を誇るバロック・オーケストラのパイオニアとして高い水準の演奏で毎回聴衆を魅了している。

ヨーロッパ各地の主要な音楽祭、コンサートホールにも常に登場しており、その自然で美しい演奏は現在増えてきているオリジナル楽器のオーケストラの最高峰と称されている。今回はナチュラル・トランペットのJ-F.マドゥーフの他、フルート・トラヴェルソのB.クイケン等、管の名手を揃え、バッハの真髄に迫る。

メンバー

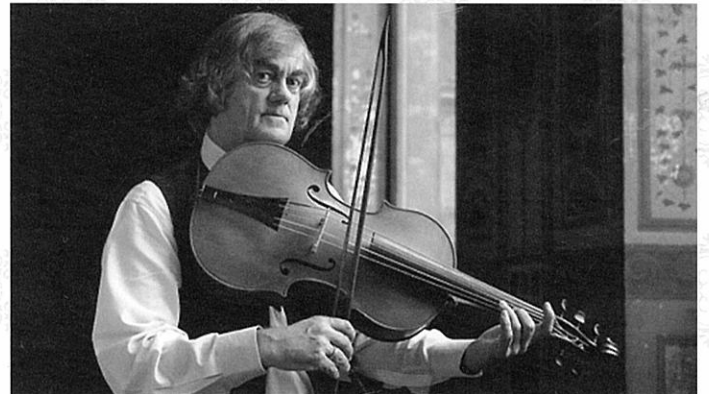
Violin I Sigiswald Kuijken Sara Kuijken	Flute Barthold Kuijken	Trumpets Jean-Francois Madeuf Jérôme Princé Graham Nicholson
Violin II Barbara Konrad Ann Cuop	Oboe Vinciane Baudhuin Emiliano Rodolfi Mathieu Loux	Timpani Koen Plaetnick
Viola Marleen Thiers	Bassoon Rainer Johannsen	Harpisichord Benjamin Alard
Basse de violon Marian Minne Ronan Kernoa		
Violoncello da Spalla Sigiswald Kuijken		

シギスヴァルト・クイケン

Sigiswald Kuijken

1944年ブリュッセル近郊生まれ。64年にブリュッセルの音楽院を卒業。若い頃から、兄ヴィーラントとともに古楽に親しみ、独学で17～18世紀の演奏技術と演奏習慣を徹底して身につけた。これを契機に1969年、あごで楽器を支えず自由に肩に持たせかける奏法をはじめ、これはヴァイオリン音楽へのアプローチに決定的な影響を及ぼし、70年代初めから多くの奏者たちによって続々と採用されることになった。64年から72年までの間、アラリウス・アンサンブルの一員として活動し、その後も兄弟であるヴィーラントとバルトルド、グスタフ・レオンハルト、ロベール・コーネン、アンナー・ビルスマ、フランス・ブリュッヘン、ルネ・ヤーコプスと個性的な室内楽プロジェクトを立ち上げている。72年ラ・プティット・バンド結成。シギスヴァルトは恒久的なリーダーとして精力的な活動を続けている。86年クイケン弦楽四重奏団結成。98年以来、しばしば「モダン」の交響楽団を指揮し、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンなどのロマン派のレパートリーにも取り組んでいる。2004年シギスヴァルトの研究により復元された「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ」でバツハ時代のチェロ・パートを演奏し注目を集める。71年から96年までハーグ音楽院、同時に93年から2009年はブリュッセルの王立音楽院で教鞭をとっている。その他、ロンドンのロイヤル・カレッジ、シエナのキジアーナ音楽院、ジュネーブ音楽院、ライプツィヒ音楽大学等で各員教授として教えている。

2007年2月にルーヴェン・カトリック大学より名誉博士号を授与、2009年2月にはフランドル政府より「生涯功労賞」が授与された。



ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ (Violoncello da Spalla) とは

スパッラはイタリア語で「肩」を意味します。ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラは肩のチェロ、肩に乗せて演奏されるチェロを意味します。肩に構える奏法のため、バロック時代には、ヴァイオリン奏者やヴィオラ奏者により演奏されました。J.S.バッハがヴァイマルの宮廷音楽家になった時、ヴァルターは教則本に「チェロはイタリアの低音楽器で…ヴァイオリンのように演奏された。つまり部分的に左手で支えられた」と記しました。彼の言葉はチェロがヴァイオリンのように弾かれる、すなわちJ.S.バッハの作品とドイツ作品群のなかでも、ダ・スパッラ式に肩で構える奏法を強く裏付けています。ヴァルターの他、ドイツ、イタリアの原典を元に、研究がなされ、ディミトリー・パディアロフが、現存するヴィオロンチェロ・ダ・スパッラの中でも最も小型のホフマンの楽器を復元、クイケンをはじめ、寺神戸亮等が演奏している。ヴィオラをひと回り大きくした、肩から吊るして、ギターのように構えて弾くこの楽器。コンパクトなボディから予想以上に豊かに鳴る低音、独特の美しい繊細な音色で、奏者そして聴衆を魅了している。

ラ・プティット・バンド & シギスヴァルト・クイケン

ACCENT

『管組』を再録音!

本当の音を追求するクイケンのこだわりが結実した1枚!



J.S. バッハ:

管弦楽組曲(全曲)

バルトルド・クイケン(トラヴェルソ)
録音: 2012年9月29日～10月1日:
ベルギー、シント・トルイデン、
ペギンホフ教会
ACC 24279

公演曲目

S.クイケンの職人技が魅せる、

ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラによる無伴奏チェロ組曲!



J.S. バッハ:

無伴奏チェロ組曲(全曲)

録音: 2007年(デジタル)
ACC 24196

公演曲目

純正な響きを追求した新名盤の登場!



J.S. バッハ:

ブランデンブルク協奏曲(全曲)

録音: 2009年10月19-23日
ベルギー、ギャラクシー・スタジオ
KKC-5138/9(2SACD Hybrid)
日本語解説付

公演曲目

★古楽界の巨匠 S.クイケン率いるラ・プティット・バンドによるバッハの管弦楽組曲。彼らは1981年に録音しており、31年ぶりの再録音ということで、その間の絶え間ない研究や技術の向上が結実したものとなっています。そして通常2枚組で販売されることの多い作品ですが、クイケンならではの快速テンポで1枚に収め、爽快で生き生きとした演奏を聴かせてくれます。

★ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラによる無伴奏チェロ組曲を S.クイケンが録音。「肩のチェロ」と呼ばれるこの楽器は、ヴァイオリンやヴィオラと同じ構えて演奏する小型チェロ。この楽器はディミトリー・パディアロフによって2004年製作完成、その直後からクイケンがステージで演奏していました。様々な記録を元に復元されたスパッラの、新鮮な音の響き、新しい効果、滋味深い、味わいのあるクイケンの演奏は必聴です。

★バロック音楽界では革命的影響を及ぼしたヴィオロンチェロ・ダ・スパッラを用いた録音。歴史的研究に基づきバロック時代の管弦楽曲は「1パート1人」で演奏されていたと考えられており、この演奏もそのような編成を取っています。古楽の先駆者たちが数々の録音を行っています。このアルバムはそれらの演奏に一石を投じるものとなりました。